

2024年度  
講義概要（シラバス）  
2年生

松江総合医療専門学校  
理学療法学科

科目区分	基礎分野	履修条件			
科目名	レクリエーション	単位数	1	開講年次	2年前期
担当教員	三井律子	実務経験		公民館等、各種施設で体操講師経験あり	
授業形態	実習				
授業内容	レクリエーションプログラムの実践				
授業科目の 学習教育目標	レクリエーションについて理解する				
到達目標 (行動目標)	指導者としての基礎知識、レクリエーション活動、援助方法を学び、レクリエーションプログラムを実践できる。				
回数	授業計画				
1	レクリエーションの定義について				
2	レクリエーションの効用について				
3	レクリエーション実施の心得				
4	手・足の体操				
5	グループゲームの実際①				
6	グループゲームの実際②				
7	道具を使ったゲーム①				
8	道具を使ったゲーム②				
9	歌に合わせた体操の作成①				
10	歌に合わせた体操の作成②				
11	レクリエーション活動援助①				
12	レクリエーション活動援助②				
13	レクリエーション活動援助③				
14	レクリエーションプログラムについて①				
15	レクリエーションプログラムについて②				
成績評価	出席状況、課題への取り組み等を考慮して総合的に評価する				
教科書及び参考書	基礎から学ぶ介護シリーズ 認知症の人のレクリエーション/余暇問題研究所 中央法規				
教材 <small>(例：パソコン・プロジェクター)</small>					
メールアドレス					
備考（受講に際する留意点など）					
楽しく充実した授業になるようお互いに切磋琢磨し取り組みましょう。					

科目区分	専門基礎分野	履修条件			
科目名	精神医学	単位数	2	開講年次	2年前期
担当教員	朴 盛弘	実務経験		総合病院の医師として勤務経験あり。	
授業形態	講義				
授業内容	精神疾患について講義する				
授業科目の 学習教育目標	心の健康、疾病及び障害について、予防と回復過程の促進に関する知識を合わせて習得し、理解力、観察力及び判断力を養う。				
到達目標 (行動目標)	① 疫学、予後について説明できる。 ② 病因、症候について説明できる。 ③ 評価、検査（画像・生理検査を含む）、診断について説明できる。 ④ リハビリテーション医療について説明できる。 ⑤ その他の治療（精神療法を含む）について説明できる。 ⑥ 精神障害の一般的疾患について説明できる。				
回数	授業計画				
1	精神疾患（精神障害）概論 1				
2	精神疾患（精神障害）概論 2				
3	精神医療と法律 1				
4	精神医療と法律 2				
5	精神医療と法律 3				
6	精神医療と法律 4				
7	ストレスと疾患・心身症				
8	ストレスと疾患・ストレス関連障害				
9	症候論 1				
10	症候論 2				
11	症候論 3				
12	症候論 4				
13	統合失調症				
14	感情障害				
15	心因反応				
16	神経症性障害				
17	アルコール依存症、認知症				
18	発達障害 他				
成績評価	定期試験、出席状況				
教科書及び参考書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学 上野 武治（医学書院） 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 臨床心理学 町沢 静夫（医学書院）				
教材 <small>（例：パソコン・プロジェクター）</small>	パソコン、プロジェクター				
メールアドレス					
備考（受講に際する留意点など）					

科目区分	専門基礎分野	履修条件			
科目名	整形外科科学 I	単位数	2	開講年次	2 年前期
担当教員	橋本 康平	実務経験		理学療法士として総合病院で実務経験あり。	
授業形態	講義＋グループワーク形式（プリント配布、スライド）				
授業内容	座学にて様々な整形外科疾患を、症例も踏まえながら学習していく。				
授業科目の 学習教育目標	骨関節障害をはじめ、様々な整形外科に関する主な疾患の病因，病態生理，症候，診断と治療を学ぶ。				
到達目標 (行動目標)	① 疫学，予後について説明できる ② 病因，症候について説明できる ③ 検査（画像・生理検査を含む），診断，治療について説明できる ④ リハビリテーション医療について説明できる ⑤ 整形外科の一般的疾患について説明できる				
回数	授業計画				
1	骨関節障害の疫学，予後，病因，症候について				
2	骨関節障害の検査（画像・生理検査を含む），診断，治療について				
3	骨関節障害のリハビリテーション医療について				
4	骨関節障害の一般的疾患について				
5	変形性関節症，人工関節置換術後				
6	骨折，脱臼，靭帯損傷				
7	関節リウマチとその近縁疾患				
8	スポーツ損傷				
9	脊椎疾患（椎間板ヘルニア，脊椎症を含む）				
10	腰痛症				
11	切断（先天奇形を含む）				
12	肩関節疾患（肩関節周囲炎，腱板損傷を含む）				
13	骨粗鬆症				
14	骨壊死性疾患				
15	先天異常，系統疾患（骨端症を含む）				
成績評価	グループワーク・発表・小テスト・筆記試験を総合して評価				
教科書及び参考書	病気がみえる V0111 運動器・整形外科／MEDIC MEDIA				
教材 <small>(例：パソコン・プロジェクター)</small>	パソコン、プロジェクター				
メールアドレス					
備考（受講に際する留意点など）					

科目区分	専門基礎分野	履修条件			
科目名	整形外科科学Ⅱ	単位数	2	開講年次	2年後期
担当教員	橋本 康平	実務経験		理学療法士として総合病院で実務経験あり。	
授業形態	講義＋グループワーク形式（プリント配布、スライド）				
授業内容	座学にて様々な整形外科疾患を、症例も踏まえながら学習していく。				
授業科目の 学習教育目標	骨関節障害をはじめ、様々な整形外科に関する主な疾患の病因，病態生理，症候，診断と治療を学ぶ。				
到達目標 (行動目標)	① 疫学，予後について説明できる ② 病因，症候について説明できる ③ 検査（画像・生理検査を含む），診断，治療について説明できる ④ リハビリテーション医療について説明できる ⑤ 整形外科の一般的疾患について説明できる				
回数	授業計画				
1	・義肢・装具				
2	・骨端症				
3	・頸椎疾患				
4	・末梢神経障害				
5	・スポーツ障害				
6	・腰椎疾患				
7	・脊椎の変形・奇形・腫瘍				
8	・股関節疾患				
9	・膝関節疾患				
10	・足関節疾患				
11	・肩関節疾患				
12	・関節リウマチ				
13	・転移性骨腫瘍・骨軟部腫瘍				
14	・リハビリテーション				
15	・まとめ				
成績評価	グループワーク・発表・小テスト・筆記試験を総合して評価				
教科書及び参考書	病気がみえる V0111 運動器・整形外科／MEDIE MEDIA				
教材 <small>(例：パソコン・プロジェクター)</small>	パソコン、プロジェクター				
メールアドレス					
備考（受講に際する留意点など）					

科目区分	専門基礎分野	履修条件			
科目名	神経内科学Ⅰ	単位数	2	開講年次	2年前期
担当教員	福島 卓	実務経験		理学療法士として総合病院で実務経験あり。	
授業形態	講義				
授業内容	神経内科疾患の症状、診断、治療について講義する				
授業科目の 学習教育目標	神経内科で扱う疾患、症状の理解、診断方法、治療法について講義する				
到達目標 (行動目標)	神経内科疾患の症状、検査、診断、治療等について理解する				
回数	授業計画				
1	神経内科学総論/ニューロン				
2	大脳～脊髄機能				
3	意識、脳神経の診かた				
4	運動、感覚の診かた				
5	運動、感覚、腱反射、失調 1				
6	運動、感覚、腱反射、失調 2				
7	失語、失認、失行 1				
8	失語、失認、失行 2				
9	認知症 1				
10	認知症 2				
11	神経内科学検査				
12	脳血管障害 1				
13	脳血管障害 2(頭部外傷)				
14	脳血管障害 3 (画像診断)				
15	脳血管障害 3 (画像診断)				
成績評価	定期試験 60%、小テスト 40%で総合的に評価				
教科書及び参考書	病気がみえる Vol.7 脳・神経 参考書：ベッドサイドの神経の診かた				
教材 <small>(例：パソコン・プロジェクター)</small>	パソコン、配布資料				
メールアドレス	<a href="mailto:s.fuku@matsuecc.ac.jp">s.fuku@matsuecc.ac.jp</a>				
備考 (受講に際する留意点など)					

科目区分	専門基礎分野	履修条件			
科目名	神経内科学Ⅱ	単位数	2	開講年次	2年後期
担当教員	内田 武	実務経験		理学療法士として総合病院で実務経験あり。	
授業形態	講義				
授業内容	神経内科学領域の疾患について講義する				
授業科目の 学習教育目標	神経内科学領域で扱う疾患について症状の理解、診断、治療等について講義する				
到達目標 (行動目標)	神経内科疾患の症状、検査、診断、治療等について理解する				
回数	授業計画				
1	大脳皮質	正常圧水頭症			
2		Lewy 小体型認知症			
3		慢性硬膜下血腫			
4		Huntington 病			
5	小脳	脊髄小脳変性症 多系統萎縮症			
6	上位・下位ニューロン	筋萎縮性側索硬化症			
7		多発性硬化症 視神経脊髄炎			
8	下位ニューロン	Guillain-Barré 症候群			
9		上肢麻痺			
10		下肢麻痺			
11	筋疾患	筋ジストロフィー			
12		多発性筋炎			
13		重症筋無力症			
14		皮膚筋炎			
15	まとめ				
成績評価	定期試験 60%、小テスト 40%で総合的に評価				
教科書及び参考書	病気がみえる Vol.7 脳・神経 (メディックメディア) 参考書: ベッドサイドの神経の診かた				
教材 <small>(例: パソコン・プロジェクター)</small>	パソコン、プロジェクター、配布資料				
メールアドレス					
備考 (受講に際する留意点など)					

科目区分	専門基礎分野	履修条件			
科目名	栄養学	単位数	2	開講年次	2年前期
担当教員	小林裕太	実務経験		大学教員として大学、専門学校での教育経験あり。	
授業形態	講義				
授業内容	リハビリテーションと栄養の関係について講義する				
授業科目の 学習教育目標	リハビリテーションを行っている障害者や高齢者の多くに低栄養を認める。栄養改善が機能や ADL の改善に必要であるため、リハビリテーション栄養の考え方と実践が重要となる。リハビリテーション栄養に必要な知識を理解する。				
到達目標 (行動目標)	<p>栄養・食生活、身体活動・運動、休養と健康の関連について説明できる。</p> <p>各栄養素の構造と機能について説明できる。</p> <p>各栄養素と関連疾患について説明できる。</p>				
回数	授業計画				
1	リハビリテーションにおける栄養知識の重要性				
2	栄養の基礎、炭水化物				
3	たんぱく質				
4	脂質				
5	ビタミンとミネラル				
6	核酸と遺伝子				
7	リハビリテーションと栄養				
8	侵襲時の栄養、栄養ケアプロセスの実際				
9	主な病態の栄養療法 1				
10	主な病態の栄養療法 2				
11	主な病態の栄養療法 3				
12	主な疾患の栄養療法 1				
13	主な疾患の栄養療法 2				
14	主な疾患の栄養療法 3				
15	栄養関連事項				
成績評価	講義の際の小テスト（50%）と定期試験（50%）で評価する。				
教科書及び参考書	医歯薬出版：リハビリテーションに役立つ栄養学の基礎/栢下淳・若林秀隆				
教材 <small>(例：パソコン・プロジェクター)</small>	パソコン				
メールアドレス					
備考（受講に際する留意点など）					

科目区分	専門基礎分野	履修条件			
科目名	薬理学	単位数	2	開講年次	2年後期
担当教員	小林裕太	実務経験	大学教員として大学、専門学校での教育経験あり。		
授業形態	講義				
授業内容	薬物療法について講義する				
授業科目の 学習教育目標	薬物の作用機序や投与方法、体内動態に関する基本的事項を理解した上で、対象疾患に関連した薬物療法の考え方について講義する。あわせて薬物の副作用や多剤服用症状についても学習する。				
到達目標 (行動目標)	薬物の作用機序、投薬方法、体内動態について説明できる。 理学療法で遭遇する疾患に対する薬物療法について説明できる。 薬物の副作用について説明できる。				
回数	授業計画				
1	総論 1: 薬理学の概念、薬物受容体、薬理作用について				
2	総論 2: 薬物治療の基礎知識、薬効に影響を与える要因について				
3	総論 3: 与薬経路、薬の有害作用について				
4	薬物体内動態				
5	炎症、免疫関連疾患と治療薬				
6	感染症				
7	末梢性神経疾患治療薬				
8	中枢神経性疾患治療薬 1: 向精神薬、抗うつ薬、パーキンソン症候群治療薬、抗てんかん薬				
9	中枢神経性疾患治療薬 2: 全身麻酔薬、催眠薬と抗不安薬、麻薬性鎮痛薬				
10	心臓・血管系作用薬 1: 高血圧治療薬、利尿薬、脂質異常症治療薬、血液造血系作用薬				
11	心臓・血管系作用薬 2: うっ血性心不全治療薬、抗不整脈薬、強心薬、狭心症治療薬				
12	疼痛の制御と薬物療法				
13	代謝性疾患治療薬、内分泌疾患治療薬: 生殖器系作用薬、ホルモンおよびホルモン拮抗薬、ビタミン				
14	呼吸器系・消化器系作用薬: 喘息治療薬、鎮咳薬、消化器系疾患治療薬、眼科用薬、漢方薬				
15	がんとその治療、消毒薬				
成績評価	講義の際の小テスト (50%) と定期試験 (50%) で評価する。				
教科書及び参考書	医歯薬出版: リハベーシック薬理学・臨床薬理学/内山靖・藤井浩美・立石雅子 編				
教材 <small>(例: パソコン・プロジェクター)</small>	パソコン				
メールアドレス					
備考 (受講に際する留意点など)					

科目区分	専門基礎分野	履修条件			
科目名	医学概論 (救急救命・予防)	単位数	1	開講年次	2年前期
担当教員	内田 武	実務経験		理学療法士として総合病院で実務経験あり。	
授業形態	講義形式				
授業内容	救急救命、および予防医学について講義と実技をする。				
授業科目の 学習教育目標	医学の概要について、医学の歴史、医の倫理、健康(疾病)と医学、個性性の医学等を学習する。特に疾患・障害が生じないための予防方法、または障害が生じてしまった時の救急診療の実情を理解し、医療人として理解しておくべき救急診療における知識および救急患者に直面した時の対応法および救急蘇生法の基礎について習得する。				
到達目標 (行動目標)	<p>医学の歴史や倫理など概要を理解する。</p> <p>予防医学について理解する。</p> <p>1) 生活習慣病</p> <p>2) フレイル・ロコモティブシンドローム</p> <p>3) スポーツ障害</p> <p>4) 認知症</p> <p>救急法について学ぶ</p> <p>1) 救急診療の実情を理解する。</p> <p>2) 病院で遭遇する頻度の高い救急疾患について理解する。</p> <p>3) 医療人としての救急患者の基本的な対応法について理解する。</p> <p>4) 救急疾患に罹患しリハビリテーションが必要となった患者のリスクに対する知識を深める。</p>				
回数	授業計画				
1	医学とは：医学の歴史、医の倫理、医学の過去・現在・未来について理解する。				
2	予防医学の理論（一次・二次・三次予防など）を現在の行政施策などの実践例を通して理解する。				
3	予防医学に必要な疫学の知識（デザイン、スクリーニング、妥当性など）を学ぶ。				
4	生活習慣やフレイル、スポーツ障害、認知症の評価方法や情報検索技法などを学ぶ。				
5	介入の効果評価のための統計学の基礎を確認する。				
6	生活習慣病と予防				
7	フレイル・ロコモティブシンドロームと予防				
8	スポーツ障害と予防				
9	認知症と予防				
10	救急法 一次救命処置コース				
11	救急法 応急手当コース：一次救急救命を除く救急法、ケガや急病への対処法を学ぶ				
12	健康生活支援講習：高齢者の日常生活における介護方法、緊急事態に対応する方法				
13	幼児安全法：子供に起こりやすい事故の予防と手当				
14	防災セミナー：災害への備え、応急手当など				
15	まとめ				
成績評価	小テスト、定期試験などを総合的に評価する。				
教科書及び参考書	必要に応じて随時資料を配布する				
教材 <small>(例：パソコン・プロジェクター)</small>	パソコン、プロジェクター				
メールアドレス					
備考（受講に際する留意点など）					

科目区分	専門基礎分野	履修条件	
科目名	リハビリテーション医学	単位数	2
開講年次	2年後期		
担当教員	澤田 勝寛 内田 賢	実務経験	医師として総合病院で実務経験あり。 理学療法士として総合病院で実務経験あり。
授業形態	講義		
授業内容	リハビリテーションに関わる障害の評価と治療を学ぶ		
授業科目の 学習教育目標	リハビリテーションの理念について学習する。リハビリテーション医療の定義と内容について学習する。リハビリテーション医療の特徴について学習する。		
到達目標 (行動目標)	リハビリテーションの理念について説明できる。リハビリテーション医療の定義と内容について説明できる。リハビリテーション医療の特徴について説明できる。		
回数	授業計画		
1	リハビリテーション医学 総論		
2	切断について		
3	義肢・装具の支給体制		
4	リハビリテーション診療		
5	画像診断		
6	生理検査		
7	嚥下障害		
8	高齢者の特徴		
9	老年症候群について		
10	高齢者のリハビリテーション		
11	脊髄損傷の評価		
12	脊髄損傷のPT		
13	循環器疾患		
14	地域包括ケアシステムについて～PT・OTに求められることは～		
15	まとめ		
成績評価	定期試験		
教科書及び参考書	教科書：最新リハビリテーション医学 医歯薬出版		
教材 <small>(例：パソコン・プロジェクター)</small>	パソコン、プロジェクター		
メールアドレス			
備考（受講に際する留意点など）			
基礎医学で修得済みのものもありますので復習しておいてください。 国家試験の過去問も解説をしながら使用します。			

科目区分	専門分野	履修条件			
科目名	臨床運動学	単位数	2	開講年次	2年前期
担当教員	橋本・馬庭他 理学療法学科教員	実務経験		理学療法士として総合病院で実務経験あり。	
授業形態	講義、演習、レポート作成				
授業内容	正常な人間の動きを理解するために、姿勢、寝返り、起き上がり、起立、歩行など実際に行われている動作や運動の観察と分析を行う。				
授業科目の 学習教育目標	運動学の基礎知識をもとに、健常者を対象として行われている姿勢や動作を観察・分析する。その中で基本動作をみる眼を養い、運動学的表現を身に付け、基本的な動作分析の考え方を学ぶ。レポートを作成し、運動学・解剖学的表現の使い方、文章を通じて自分の考えをまとめる能力を身につける。				
到達目標 (行動目標)	<p>"基本動作および歩行に必要な機能の理解を深め、これらを基に臨床症例の姿勢や動作を観察、説明、考察できるようになり、実際の評価および理学療法に活用できる。</p> <p>①正常な姿勢、基本動作を知り、解剖学・運動学的表現ができる。</p> <p>②様々な運動パターンを観察し、正常との違いを比較する。</p> <p>③自らの考えを相手に伝え、フィードバックを受け、考えを深めることができる。</p> <p>④運動学・解剖学的表現でレポートにまとめ自分の意見を伝えることができる。</p>				
回数	授業計画				
1,2	姿勢観察の基本・レポート作成				
3,4	姿勢の異常とその原因・レポート作成				
5,6	姿勢観察と異常の原因考察（症例実践）・レポート作成				
7,8	寝返り動作のバイオメカニクス・レポート作成				
9,10	寝返り動作の異常とその原因・レポート作成				
11,12	寝返り動作の異常と原因考察（症例実践）・レポート作成				
13,14	起き上がり動作のバイオメカニクス・レポート作成				
15,16	起き上がり動作の異常とその原因・レポート作成				
17,18	起き上がり動作の異常と原因考察（症例実践）・レポート作成				
19,20	立ち上がり動作のバイオメカニクス・レポート作成				
21,22	立ち上がり動作の異常とその原因・レポート作成				
23,24	立ち上がり動作の異常と原因考察（症例実践）・レポート作成				
25,26	歩行動作のバイオメカニクス・レポート作成				
27,28	歩行動作の異常とその原因・レポート作成				
29,30	歩行動作の異常と原因考察（症例実践）・レポート作成				
成績評価	確認テストと演習ごとのレポート課題などを総合して判定				
教科書及び参考書	<p>配布資料：演習ごとに配布します。</p> <p>参考文献：「動作分析 臨床活用講座 バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践」メジカルビュー</p>				
教材  (例：パソコン・プロジェクター)	治療台、マット、撮影機器、メジャーなど				
備考（受講に際する留意点など）					
臨床実習の基礎となるので、積極的に取り組み、理解を深めてください。課題レポートの提出期限は厳守してください。授業ではなるべく薄着で、身体の動きが確認しやすい服装を心がけてください。					

科目区分	専門分野	履修条件			
科目名	理学療法評価法Ⅱ (感覚・反射等)	単位数	2	開講年次	2年前期
担当教員	内田 武	実務経験		理学療法士として総合病院で実務経験あり。	
授業形態	講義、実技				
授業内容	理学療法評価技術（筋緊張・反射・感覚・姿勢反射検査）の目的、方法等の講義と合わせて実技を行い、技術を習得していく。				
授業科目の 学習教育目標	疾病に関係なく理学療法士が実施する種々の機能低下を把握するための検査測定技法（知覚検査、筋トーン検査、反射検査、姿勢反射検査）を修得し、その結果の解釈について学ぶ。				
到達目標 (行動目標)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感覚異常の程度と関連要因を把握する評価が実施できる</li> <li>・筋緊張異常の程度と関連要因を把握する評価が実施できる</li> <li>・反射異常の程度と関連要因を把握する評価が実施できる</li> <li>・姿勢異常（臥位、座位、立位）や運動能力低下による起居移動動作能力低下、さらにセルフケアや住環境（生活環境）の課題を把握する評価が実施できる。</li> <li>・評価結果を統合と解釈し、臨床推論に繋げることができる。</li> </ul>				
回数	授業計画				
1	感覚検査とは（意義・目的）				
2	感覚検査（表在・深部感覚）				
3	感覚検査（複合感覚）				
4	反射とは（意義・目的）				
5	反射検査（深部反射）				
6	反射検査（表在反射）				
7	反射検査（病的反射/表在反射）				
8	反射検査（病的反射/表在反射）				
9	筋トーン検査（意義・目的）				
10	筋トーン検査（静止時検査）				
11	筋トーン検査（姿勢性検査）				
12	姿勢反射検査（脊髄レベル・脳幹レベル）				
13	姿勢反射検査（中脳レベル・脳皮質レベル）				
14	評価結果の解釈・統合、臨床推論（運動能力低下より）				
15	評価結果の解釈・統合、臨床推論（まとめ）				
成績評価	小テスト、定期試験などを総合的に評価する。				
教科書及び参考書	筆記試験と実技手技の習得などを総合して評価を行う。				
教材 <small>(例：パソコン・プロジェクター)</small>	パソコン、プロジェクター				
メールアドレス					
	備考（受講に際する留意点など）				

科目区分	専門分野	履修条件			
科目名	理学療法評価法実習Ⅱ (触診)	単位数	1	開講年次	2年前期
担当教員	内田 武	実務経験		理学療法士として総合病院で実務経験あり。	
授業形態	講義、実技				
授業内容	実際の症例を通して、急性痛・慢性痛に対する理学療法士の見方や考え方を実技中心にして学ぶ。				
授業科目の 学習教育目標	疾病に関係なく、様々な急性痛・慢性痛の疫学、病因、症候、分類、予後を踏まえて、理学療法士が実施する種々の機能低下を把握するための検査測定技法(触診、整形外科検査)を修得し、その結果の解釈、治療の方法について学ぶ。				
到達目標 (行動目標)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・疼痛(急性痛, 慢性疼痛)の程度と関連要因を把握して評価が実施できる</li> <li>・急性痛・慢性痛の疫学, 予後について説明できる</li> <li>・急性痛・慢性痛の病因, 症候について説明できる</li> <li>・急性痛・慢性痛の検査(画像・生理検査を含む), 診断, 治療について説明できる</li> <li>・急性痛・慢性痛のリハビリテーション医療について説明できる</li> <li>・慢性疼痛の分類について説明できる</li> </ul>				
回数	授業計画				
1	理学療法技術としての触診・整形外科的検査・疼痛評価 概論				
2	各急性・慢性疼痛の疫学、予後、病因、症候、分類について				
3	触診 実技 (上肢)				
4	触診 実技 (下肢)				
5	触診 実技 (体幹)				
6	整形外科検査(上肢)				
7	整形外科検査(下肢)				
8	整形外科検査(体幹)				
9	各急性・慢性疼痛の検査結果(画像・生理検査)、診断を踏まえた検査(触診、疼痛検査、整形外科的検査)、治療の方法について				
10	一次性慢性疼痛(非特異的腰痛, 線維筋痛症などを含む)				
11	がん性慢性疼痛術後および外傷後慢性疼痛(複合性局所疼痛症候群などを含む)				
12	慢性神経障害性疼痛(帯状発疹後神経痛, 三叉神経痛, 視床痛, 幻視痛などを含む)				
13	慢性筋骨格系痛				
14	その他慢性疼痛(慢性の頭痛, 口腔顔面痛, 内臓痛などを含む)				
15	評価結果の解釈・統合を考える				
成績評価	学科試験、実技テスト、小テストなど総合的に評価する。				
教科書及び参考書	機能解剖学的触診技術 「上肢」(メジカルビュー社) 機能解剖学的触診技術 「下肢・体幹」(メジカルビュー社) ビジュアルレクチャー 理学療法基礎評価学(第1版, 医歯薬出版株式会社) 配布資料(プリントなど)				
教材 (例: パソコン・プロジェクター)	パソコン、プロジェクター				
メールアドレス					
	備考(受講に際する留意点など)				

科目区分	専門分野	履修条件			
科目名	理学療法評価法 実習Ⅲ (各種検査法)	単位数	1	開講年次	2年前期
担当教員	橋本康平	実務経験		理学療法士として総合病院で実務経験あり。	
授業形態	実技、必要に応じて講義				
授業内容	脳神経検査・姿勢反射・片麻痺機能検査・協調性検査・高次脳検査・精神疾患の評価について学習する。				
授業科目の 学習教育目標	上記の項目についての評価方法と筋骨格・神経系メカニズムについて学習する。また、評価結果の解釈と動作異常と関連付ける思考過程の練習を行い、その説明が出来るようになる。				
到達目標 (行動目標)	各回の講義内容を復習し、必要があれば担当教員への質問を行う。これらを通して、理解度確認テストで十分な点数が取れるよう学習を行う。実習形式で実技を行う際には、デモンストレーションの模倣からはじめて、積極的に参加し繰り返し身体を使って練習をする。				
回数	授業計画				
1	脳神経検査				
2	脳神経検査				
3	協調性検査				
4	協調性検査				
5	片麻痺 BRS・1 2段階・SIAS				
6	片麻痺 BRS・1 2段階・SIAS 協調性検査				
7	パフォーマンステスト				
8	パフォーマンステスト				
9	高次脳機能検査				
10	高次脳機能検査				
11	姿勢反射検査				
12	姿勢反射検査				
13	OSCE				
14	OSCE				
15	最終まとめ				
成績評価	確認テスト・OSCE（実技試験）と定期試験で総合的に評価する。				
教科書及び参考書	ビジュアルレクチャー 理学療法基礎評価学 医歯薬出版				
教材 <small>(例：パソコン・プロジェクター)</small>					
メールアドレス					
備考（受講に際する留意点など）					

科目区分	専門分野	履修条件			
科目名	運動療法 I (疾患別)	単位数	2	開講年次	2 年前期
担当教員	馬庭春樹	実務経験		理学療法士として総合病院で実務経験あり。	
授業形態	講義				
授業内容	調べ学習、課題発表を通して、運動療法の基礎、疾患別の運動療法の基本方針を理解する。				
授業科目の 学習教育目標	① 理学療法士が担当する各疾患の特徴について理解する ② 理学療法士が行う運動療法について理解する ③ 理学療法士が担当する各疾患における運動療法の基本方針を理解する				
到達目標 (行動目標)	① 各疾患の特徴について調べ学習し、分かりやすく説明できる ② 理学療法士が行う基本的な運動療法の概要について調べ学習し、分かりやすく説明できる ③ 疾患別の運動療法の基本方針を調べ学習し、分かりやすく説明できる				
回数	授業計画				
1	理学療法ガイドラインについて、各疾患の特徴について①（調べ学習）				
2	各疾患の特徴について②（発表準備）				
3	各疾患の特徴について③（発表練習）				
4	課題発表 1（各疾患の特徴）				
5	課題発表 2（各疾患の特徴）				
6	各疾患における理学療法評価について①（調べ学習）				
7	各疾患における理学療法評価について②（発表準備）				
8	各疾患における理学療法評価について③（発表練習）				
9	課題発表 3（各疾患における理学療法評価）				
10	課題発表 4（各疾患における理学療法評価）				
11	各疾患における運動療法について①（調べ学習）				
12	各疾患における運動療法について②（発表準備）				
13	各疾患における運動療法について③（発表練習）				
14	課題発表 5（各疾患における運動療法）				
15	課題発表 6（各疾患における運動療法）				
成績評価	課題発表、提出物、定期試験などから総合的に評価する				
教科書及び参考書	「標準理学療法学専門分野 運動療法学総論」第 4 版（医学書院）				
教材 <small>(例：パソコン・プロジェクター)</small>	パソコン、プロジェクター、配布資料				
メールアドレス	maniwa-h@matsuecc.ac.jp				
備考（受講に際する留意点など）					
調べ学習やプレゼンテーション準備では PC やタブレット端末を用いるが、必要な作業以外では使用しないこと。グループワークでは役割分担を明確にし、各自が協力して取り組むこと。					

科目区分	専門分野	履修条件			
科目名	運動療法Ⅱ (脳性麻痺等)	単位数	2	開講年次	2年前期
担当教員	矢野翔大、石田広輝	実務経験		理学療法士として総合病院で実務経験あり。	
授業形態	講義				
授業内容	脳性麻痺・小児疾患の理学療法について講義する。				
授業科目の 学習教育目標	理学療法の対象となる小児疾患を講義・実技を中心に授業を進めていく。小児理学療法を理解するには、発達学・神経学・整形外科学等の様々な知識を必要とする。授業は、既に学んだ知識の復習を行いながら進めていく。小児理学療法が特殊な疾患ではないことを理解してほしい。				
到達目標 (行動目標)	理学療法の対象となる小児疾患について理解する。				
回数	授業計画				
1	胎児期の発達、運動の発達				
2	発達検査と運動発達検査、姿勢反射と検査方法				
3	脳性麻痺の定義、疫学、原因と病理、分類				
4	異常姿勢反射と運動発達障害				
5	脳性麻痺痙直型四肢麻痺・両麻痺の臨床症状と異常発達				
6	脳性麻痺痙直型片麻痺の臨床症状と異常発達				
7	脳性麻痺アテトーゼ型の臨床症状と異常発達				
8	脳性麻痺痙直型四肢麻痺・両麻痺の評価と治療				
9	脳性麻痺痙直型片麻痺の評価と治療				
10	脳性麻痺アテトーゼ型の評価と治療				
11	子ども整形外科疾患（二分脊）				
12	ダウン症について				
13	筋ジストロフィーについて（疾患・分類・予後予測など）				
14	筋ジストロフィー症の検査・評価				
15	筋ジストロフィーについての治療・関わり方				
成績評価	定期試験など総合的に評価する				
教科書及び参考書	小児理学療法学テキスト（デジタル教科書）/田原弘幸/南江堂				
教材 <small>(例：パソコン・プロジェクター)</small>	パソコン、プロジェクター、配布資料				
メールアドレス	<a href="mailto:s.yano03skn@gmail.com">s.yano03skn@gmail.com</a> （矢野）				
備考（受講に際する留意点など）					
1年生の人間発達学で学んだ運動発達の資料や神経系の教科書を用意しててください。					

科目区分	専門分野	履修条件			
科目名	運動療法Ⅲ（代謝・循環等）	単位数	2	開講年次	2年後期
担当教員	川島 直也 福山 直樹	実務経験		理学療法士として総合病院で実務経験あり。	
授業形態	講義				
授業内容	糖尿病を中心とした代謝疾患の理学療法について講義する（川島） 循環器疾患の評価・検査、心臓リハビリテーションについて講義する（福山）				
授業科目の 学習教育目標	<p>国民病の一つとされる糖尿病は特有の合併症を併発し、運動障害へ発展することから理学療法分野（運動療法）との関わりが深い。理学療法実施上の知識として疾患を理解していく。</p> <p>高齢化に伴い、既往歴に何らかの循環器疾患を抱えている方を担当する機会は増えてきている。臨床上よく遭遇する疾患や不整脈、循環器の評価・検査、心臓リハビリテーションについて理解を深める。</p>				
到達目標 (行動目標)	<p>代謝疾患の理学療法について理解する。</p> <p>循環器疾患の理学療法、心臓リハビリテーションについて理解する。</p>				
回数	授業計画				
1	循環器の解剖・生理・総論				
2	循環器の評価、検査				
3	心電図、不整脈				
4	循環器の疾患（Ⅰ）虚血性心疾患、心臓弁膜症				
5	循環器の疾患（Ⅱ）血管疾患、心不全				
6	運動負荷試験				
7	心臓リハビリテーション				
8	循環器疾患の理学療法 総括				
9	糖尿病概論				
10	糖尿病の検査・治療				
11	糖尿病障害 臨床症状の理解				
12	糖尿病の理学療法Ⅰ				
13	糖尿病の理学療法Ⅱ				
14	糖尿病合併症				
15	老年期の糖尿病				
16	糖尿病のまとめ				
成績評価	定期試験				
教科書及び参考書	標準理学療法学 専門分野「内部障害理学療法学」（デジタル教科書） 医学書院				
教材 <small>(例：パソコン・プロジェクター)</small>	パソコン				
メールアドレス	<a href="mailto:kawa-c@matsuecc.ac.jp">kawa-c@matsuecc.ac.jp</a>				
備考（受講に際する留意点など）					

科目区分	専門分野	履修条件			
科目名	理学療法技術論 I (整形外科疾患)	単位数	4	開講年次	2年(通年)
担当教員	橋本 康平	実務経験	理学療法士として総合病院で実務経験あり。		
実務経験	理学療法士として総合病院にて整形外科急性期分野の担当経験あり。				
授業形態	講義				
授業内容	代表的な整形外科疾患についての理学療法について学ぶ。				
授業科目の 学習教育目標	整形外科疾患の理学療法は、急性期から回復期、維持期までの治療に深くかかわっている。整形外科疾患に対する理学療法の実際について、各疾患の画像診断(CT・MRI等)や各種検査データからの情報収集や評価から治療までの一連の流れを実技なども通じて総合的に学習する。				
到達目標 (行動目標)	各回の講義内容を復習し、必要があれば担当教員への質問を行う。これらを通して、理解度確認テストで十分な点数が取れるよう学習を行う。実習形式で実技を行う際には、デモンストラーションの模倣からはじめて、積極的に参加し繰り返し身体を使って練習をする。				
回数	授業計画	回数	授業計画		
1	整形外科疾患の理学療法とは	16	脊椎の機能解剖とバイオメカニクス		
2	股関節の機能解剖とバイオメカニクス	17	脊椎の機能解剖とバイオメカニクス		
3	股関節疾患の具体的評価法	18	脊椎疾患の具体的評価法		
4	膝関節疾患の機能解剖とバイオメカニクス	19	肩関節の機能解剖とバイオメカニクス		
5	膝関節疾患の具体的評価法	20	肩関節疾患の具体的評価法		
6	骨折・脱臼の概要	21	頸椎部疾患の概要		
7	骨折・脱臼の治療	22	頸椎部疾患の治療		
8	骨折・脱臼の理学療法	23	頸椎部疾患の理学療法		
9	大腿骨頸部骨折の概要・治療	24	胸・腰部疾患の概要		
10	大腿骨頸部骨折の理学療法	25	胸・腰部疾患の治療		
11	変形性関節症の概要	26	胸・腰部疾患の理学療法		
12	変形性股関節症の概要・治療	27	肩関節疾患の概要		
13	変形性股関節症の理学療法	28	肩関節疾患の治療		
14	変形性膝関節症の概要・治療	29	肩関節疾患の理学療法		
15	変形性膝関節症の理学療法	30	まとめ		
成績評価	定期試験、グループワーク課題、発表、確認テストなどを総合して判定する。				
教科書及び参考書	運動器障害理学療法学 I・II (中山書店)				
教材	パソコン、プロジェクター、テーピング類				
備考(受講に際する留意点など)					
実習講義の場合、動きやすい服装で受講すること。 評価や治療を学ぶためには解剖学、運動学などの知識が必須となります。しっかりと復習して臨むこと。					

科目区分	専門分野	履修条件			
科目名	理学療法技術論Ⅱ (RA・難病等)	単位数	2	開講年次	2年後期
担当教員	内田 賢	実務経験	理学療法士として総合病院で実務経験あり。		
授業形態	講義				
授業内容	RA、熱傷、難病、CKD、がんに対する理学療法				
授業科目の 学習教育目標	理学療法の対象となる疾患には、発症後不幸な転機をたどるものもある。その方に寄り添いADL、QOLを高める必要がある。そのために必要な知識、技術について学習する				
到達目標 (行動目標)	RA、熱傷、難病、CKD、がん等の疫学、病態、診断、PT評価、介入方法について理解する。				
回数	授業計画				
1	RAの疫学、病理、病態、症候について				
2	RAの検査、診断、理学療法評価について				
3	RAに対する理学療法について				
4	熱傷の疫学、病理、病態、症候について				
5	熱傷の治療と評価、理学療法について				
6	難病とは：定義、疾患、国の支援・対策について、多発性筋炎について				
7	筋委縮性側索硬化症の疫学、病理、病態、理学療法について				
8	膠原病・全身性エリテマトーデスの病理、病態、理学療法について				
9	多発性硬化症の疫学、病理、病態、理学療法について				
10	ギランバレー症候群・重症筋無力症の疫学、病理、病態、理学療法について				
11	がんの疫学、病理、病態、症候について				
12	がんの治療と有害事象について				
13	がん患者に対する理学療法について				
14	慢性腎不全の理学療法について				
15	まとめ				
成績評価	定期試験、小テスト等総合的に判断する				
教科書及び参考書	配布資料				
教材 <small>(例：パソコン・プロジェクター)</small>	パソコン、プロジェクター				
メールアドレス					
備考（受講に際する留意点など）					
他の科目で修得済みのものもあります。復習をしておいてください。 国家試験の過去問も解説をしながら使用します。					

科目区分	専門分野	履修条件			
科目名	理学療法技術論Ⅲ（呼吸）	単位数	2	開講年次	2年後期
担当教員	馬庭春樹	実務経験	理学療法士として総合病院で実務経験あり。		
授業形態	講義、実技				
授業内容	呼吸器疾患患者は増加傾向にあり、呼吸リハビリテーションの重要性は増している。この科目では、呼吸器系の解剖、および呼吸器疾患について理解し、その治療法や呼吸リハビリテーションについて講義・実技を通して学習する。また理学療法士が実施できるようになった気管吸引についても学ぶ。				
授業科目の 学習教育目標	講義、症例検討を通して呼吸器疾患および呼吸リハビリテーションについて理解する。 気管吸引の目的、方法を理解する。				
到達目標 (行動目標)	①呼吸器系の解剖について理解し、説明できるようになる。②呼吸器疾患について理解し、説明できるようになる。③呼吸リハビリテーションについて理解し、説明できるようになる。④呼吸器疾患をもつ患者に対して初期評価および治療プログラムの立案ができるようになる。⑤気管吸引の目的、方法を説明できるようになる。				
回数	授業計画				
1	呼吸リハビリテーションの概要、呼吸器の構造				
2	呼吸器の生理				
3	呼吸不全の病態				
4	確認テスト①（呼吸器の構造、生理、呼吸不全について）				
5	呼吸理学療法評価の概要				
6	フィジカルアセスメント（聴診）				
7	フィジカルアセスメント（視診、打診、触診）				
8	運動耐容能評価、ADL 評価（6分間歩行試験、NRADL など）				
9	呼吸の観察、呼吸介助				
10	確認テスト②（呼吸理学療法評価について）				
11	慢性閉塞性肺疾患に対する呼吸リハビリテーション				
12	間質性肺炎に対する呼吸リハビリテーション				
13	周術期における呼吸リハビリテーション				
14	確認テスト③（慢性閉塞性肺疾患、間質性肺炎、周術期に対する呼吸リハビリテーション）				
15	気管吸引について①（吸引の方法の理解）				
16	気管吸引について②（吸引の実施）				
17	気管吸引について③（吸引のリスク、記録方法など）				
18	まとめ				
成績評価	確認テスト、定期試験などから総合的に評価する				
教科書及び参考書	標準理学療法学専門基礎分野 内部障害理学療法学 第2版（医学書院）				
教材 <small>（例：パソコン・プロジェクター）</small>	パソコン、プロジェクター、配布資料				
メールアドレス	maniwa-h@matsuecc.ac.jp				
備考（受講に際する留意点など）					

科目区分	専門基礎分野	履修条件			
科目名	理学療法技術論Ⅳ (パーキンソン・失調等)	単位数	2	開講年次	2年後期
担当教員	福島 卓	実務経験	理学療法士として総合病院で実務経験あり。		
授業形態	講義、演習				
授業内容	パーキンソン病とその関連疾患、運動失調症、脊髄小脳変性症および顔面神経麻痺について、疾患の病因、病態生理、症候、診断と治療を学ぶ				
授業科目の 学習教育目標	<p>大脳基底核、小脳を中心に構造と機能を学び、病態を理解する。</p> <p>損傷された神経機能から生じる障害と、適切な理学療法に結び付ける。</p> <p>検査やリハビリテーション医療についての知識を深める。</p> <p>顔面神経麻痺についての病因、症候、検査、診断、治療について学ぶ。</p>				
到達目標 (行動目標)	<p>①中枢神経系の構造と機能を理解し、病変による運動異常を説明できる。</p> <p>②パーキンソン病とその関連疾患、運動失調症、脊髄小脳変性症、顔面神経麻痺について、疾患の病因、病態生理、症候、診断と治療を知る。</p> <p>③リハビリテーション医療の考え方を学び、疾患別理学療法を模倣する。</p> <p>④理学療法評価項目の選択、問題点の抽出、治療プログラムの立案を経験する。</p>				
回数	授業計画				
1	大脳基底核の構造と機能				
2	パーキンソン病の概念・定義①				
3	パーキンソン病の概念・定義②				
4	パーキンソン病の症状				
5	パーキンソン病の治療				
6	パーキンソン病の理学療法理論				
7	パーキンソン症候群の分類				
8	小脳の構造と機能				
9	運動失調症の症状				
10	失調症の症状に対する評価				
11	失調症の理学療法①				
12	失調症の理学療法②				
13	脊髄小脳変性症の症状、分類、評価				
14	顔面神経の機能・構造、神経損傷による症状				
15	まとめ				
成績評価	確認テストと定期試験から総合的に評価する				
教科書及び参考書	病気が見える Vol.7 脳・神経 (メディックメディア)、ベッドサイドの神経の診かた				
教材 <small>(例：パソコン・プロジェクター)</small>	パソコン、プロジェクター、配布資料				
メールアドレス	<a href="mailto:s.fuku@matsuecc.ac.jp">s.fuku@matsuecc.ac.jp</a>				
備考 (受講に際する留意点など)					
脳機能の解剖・生理学の内容を復習しておくといはいいです。					

科目区分	専門基礎分野	履修条件			
科目名	理学療法技術論実習 I (スポーツ・プール)	単位数	1	開講年次	2年後期
担当教員	橋本康平	実務経験	理学療法士として総合病院で実務経験あり。		
授業形態	講義、実技				
授業内容	スポーツ活動支援における理学療法について扱う。				
授業科目の 学習教育目標	主なスポーツ障害・外傷の基礎知識、それらに対する理学療法士としてのかかわりについて学ぶ。また、障がい者スポーツと理学療法との関りについて学ぶ。これらの領域において必要な評価技術や基本的なリハビリテーション実技についても実習を通して学ぶ。				
到達目標 (行動目標)	各回の講義内容を復習し、必要があれば担当教員への質問を行う。これらを通して、理解度確認テストで十分な点数が取れるよう学習を行う。実習形式で実技を行う際には、デモンストレーションの模倣からはじめて、積極的に参加し繰り返し身体を使って練習をする。				
回数	授業計画				
1	スポーツ理学療法とは～活動内容とその目的～				
2	上肢・体幹のスポーツ障害～基礎知識と受傷起点のメカニズム～ (理解度確認テストの実施)				
3	上肢・体幹のスポーツ障害～一般的な評価と理学療法について～ (理解度確認テストの実施)				
4	下肢のスポーツ障害～基礎知識と受傷起点のメカニズム～ (理解度確認テストの実施)				
5	下肢のスポーツ障害～一般的な評価と理学療法について～ (理解度確認テストの実施)				
6	上肢・体幹のスポーツ外傷～基礎知識と受傷起点のメカニズム～ (理解度確認テストの実施)				
7	上肢・体幹のスポーツ外傷～一般的な評価と理学療法について～ (理解度確認テストの実施)				
8	下肢のスポーツ外傷～基礎知識と受傷起点のメカニズム～ (理解度確認テストの実施)				
9	下肢のスポーツ外傷～一般的な評価と理学療法について～ (理解度確認テストの実施)				
10	女性アスリート特有のスポーツ (理解度確認テストの実施)				
11	応急処置・テーピング実習 (理解度確認テストの実施)				
12	応急処置・テーピング実習				
13	フィジカルチェック実習				
14	障がい者スポーツ支援の概要と考え方				
15	障がい者スポーツ支援における理学療法士の役割について (理解度確認テストの実施)				
成績評価	定期試験 60%・確認テスト 30%、課題提出 10%を総合して判定する。				
教科書及び参考書	スポーツ理学療法 改訂版第2版【電子版】				
教材 <small>(例：パソコン・プロジェクター)</small>	パソコン、プロジェクター、テーピング類				
メールアドレス	<a href="mailto:hashimo10@matsuecc.ac.jp">hashimo10@matsuecc.ac.jp</a>				
備考 (受講に際する留意点など)					
実技を行うことがあるので、動きやすい服装で受講してください。質問などあれば、講義中でも受け付けますので積極的に質問をして疑問を解決できるようにしてください。					

科目区分	専門分野	履修条件			
科目名	理学療法技術論実習Ⅱ（CVA）	単位数	1	開講年次	2年前期
担当教員	福島 卓	実務経験	理学療法士として総合病院で実務経験あり。		
授業形態	講義、演習、実技				
授業内容	理学療法の対象となる中枢神経疾患として代表的な、脳卒中に対する理学療法の理論と実際について理解する。病態や障害の成立や、障害の運動解析、さらに機能回復に関わるメカニズムを習得する。				
授業科目の 学習教育目標	①脳機能を復習し、損傷部位の代表的臨床所見を理解する。 ②主な疾患の病態、病態生理、症候、診断と治療を知る。 ③高次脳機能障害、認知症を理解する。 ④代表的な脳卒中患者の評価指標を知る。⑤理学療法プログラムの立案し、実施する。 ⑥評価・介入時、リスクを認識し、管理できる能力を身につける。				
到達目標 (行動目標)	①脳解剖を確認し、それぞれの機能・役割を関連づける。 ②病態・病態生理・症候・診断を理解する。 ③高次脳機能障害・認知症について学び、コミュニケーションや対応方法を理解する。 ④脳血管障害に関する評価指標を説明する。⑤対象者の状態を把握し、適切な理学療法を選択する。 ⑥評価・測定、理学療法実施時に介入方法を工夫する。 ⑦必要なりスク管理を行い、治療を実施する。				
回数	授業計画				
1	大脳の構造・機能、機能局在				
2	大脳辺縁系・間脳・脳幹・小脳の構造・機能				
3	脳血管（動脈・静脈）の走行・分布領域				
4	脳血管障害の病因、病態整理、治療				
5	脳血管障害の局在部位の症状、経過				
6	高次脳機能障害の病態・評価・アプローチ				
7	脳血管障害のリスク管理				
8	脳卒中の評価				
9	脳画像の診方				
10	脳卒中片麻痺の基本的理学療法の考え方①				
11	脳卒中片麻痺の基本的理学療法の考え方②				
12	脳卒中片麻痺の装具療法				
13	脳卒中片麻痺の理学療法理論①				
14	脳卒中片麻痺の理学療法理論②				
15	脳卒中の合併症				
成績評価	定期試験と確認テストで総合的に評価				
教科書及び参考書	「標準理学療法学 神経理学療法学」eテキスト 森岡周、阿部浩明 「病気が見える 脳・神経」 医療情報科学研究所 編 メディックメディア 発行				
教材	パソコン、プロジェクター				
備考（受講に際する留意点など）					
脳機能の解剖・生理学の内容を復習しておいてください。					

科目区分	専門分野	履修条件			
科目名	理学療法技術論実習Ⅲ（脊損）	単位数	1	開講年次	2年後期
担当教員	坂本 親宣 内田 賢、福島 卓	実務経験	理学療法士として総合病院で実務経験あり。		
授業形態	講義・実技				
授業内容	脊髄損傷の理学療法について講義する				
授業科目の 学習教育目標	脊髄損傷者の障害は、運動や感覚障害だけでなく、自律神経障害、排尿障害、性機能障害があり、社会復帰を阻害している。脊髄損傷者に対して理学療法を施行していく上で原因、分類、経過など理解しなければならない。実技を含めながら、そのような多くの側面からの講義を行う。				
到達目標 (行動目標)	脊髄損傷の原因、分類、経過、障害について理解する。脊髄損傷患者の理学療法について基礎知識、基本的な技術について理解し習得する。				
回数	授業計画				
1	脊髄損傷の原因				
2	脊髄損傷の分類				
3	不全損傷				
4	脊髄損傷の経過				
5	脊髄損傷の症状 1				
6	脊髄損傷の症状 2				
7	実技 1				
8	実技 2				
9	実技 3				
10	実技 4				
11	実技 5				
12	実技 6				
13	実技 7				
14	実技 8				
15	実技テストとまとめ				
成績評価	定期試験（ペーパー80%、実技 20%）				
教科書及び参考書	配布資料				
教材 <small>(例：パソコン・プロジェクター)</small>	パソコン（オンライン時）、配布資料				
メールアドレス					
備考（受講に際する留意点など）					
<p>一方通行の講義でおわらないように学生に質問を次々に投げかけていくのが私の講義スタイルです。解剖学、生理学、運動学などこれまでに学校で教わった知識全般について質問をしますので、事前に知識の整理をしておいてください。もし講義を受ける気がなくて居眠りや内職をしても、皆さんは小学生ではないのですから、私は別に注意したりしません。「講義を受けたい学生だけ聞いてくれたら結構」という考えです。講義中の一瞬一瞬を大切に、お互いに納得できる講義にしたいと思いますので、講義を受ける「構え」をしっかりと作って臨んでください。また、毎日の復習を欠かさないようにしてください。</p>					

科目区分	専門分野	履修条件			
科目名	理学療法技術論実習 IV（臨床応用力）	単位数	2	開講年次	2年後期
担当教員	内田賢、川島直也 馬庭春樹、福島卓 橋本康平	実務経験	理学療法士として総合病院で実務経験あり。		
授業形態	実習形式				
授業内容	障害をお持ちの非常勤講師をお招きし、実際に患者を治療するためのプロセスを経験し、評価・治療の模倣・実施を行う。また、患者に対する配慮、コミュニケーション能力、他職種との協調性などの技術を高める。				
授業科目の 学習教育目標	中枢神経疾患症例に対する臨床推論能力と問題解決能力を高める。 基本的なアセスメントができるようになる。 患者や周囲のスタッフに対するコミュニケーション能力を身につける。				
到達目標 (行動目標)	①中枢神経疾患症例に対する主訴・need・demandなどの情報収集ができる。 ②中枢神経疾患症例の特徴を把握し、必要な評価を選択し、模倣・実施できる。 ③収集した情報と、評価結果を関連づけ、問題点を抽出できる。 ④収集した情報を問題点と関連付け、ゴール設定ができる。 ⑤①～④を関連づけ、治療プログラムの立案ができる。 ⑥⑤で立案した治療アプローチが模倣・実施できる。 ⑦医療人としてふさわしい態度・言葉遣い・身だしなみを身につける。 ⑧学生としての立場を理解し、意欲的に実習に取り組むことができる。 ⑨グループ内で協調性をもって実習を行うことができる。 ⑩実習で取り組んだ結果を文章化し、専門用語を使ってまとめることができる。				
回数	授業計画				
1,2	総論（実習の流れ・目的の説明）、カルテ情報				
3,4	情報収集（患者紹介・問診）				
5,6	情報収集（検査・測定）① 結果の分析、フィードバック				
7,8	情報収集（検査・測定）② 結果の分析、フィードバック				
9,10	情報収集（検査・測定）③ 結果の分析、フィードバック				
11,12	情報収集（検査・測定）④ 結果の分析、フィードバック				
13,14	情報収集（検査・測定）⑤ 結果の分析、フィードバック				
15,16	情報収集（検査・測定）⑥ 結果の分析、フィードバック				
17,18	情報収集（検査・測定）⑦ 結果の分析、フィードバック、問題点の抽出				
19,20	情報収集（検査・測定）⑧ 結果の分析、フィードバック、治療プログラムの立案				
21,22	再評価・治療方針変更				
23,24	在宅患者の生活見学				
25,26	担当症例以外の患者見学①				
27,28	担当症例以外の患者見学②				
29,30	症例報告会				
成績評価	課題提出（80%）、発表（20%）				
教科書及び参考書	理学療法評価学／金原出版 理学療法ハンドブック／協同医書出版社 他				
教材 <small>(例：パソコン・プロジェクター)</small>	適宜				
メールアドレス					
備考（受講に際する留意点など）					
症例に対する評価の選択、実技の実施、評価結果の「統合と解釈」のグループ演習を行います。課題に対しては、教科書や文献などを自ら調べ、諸問題に対する解決能力の向上が求められています。臨床実習につながる大切な機会となりますので、学生各自の積極的な取り組みとグループ内での活発なディスカッションを期待しています。					

科目区分	専門分野	履修条件			
科目名	日常生活活動論	単位数	2	開講年次	2年前期
担当教員	川島 直也	実務経験	理学療法士として総合病院で実務経験あり。		
授業形態	講義・演習				
授業内容	人間が生活していく上で、慢性疾患や障害を持ちながら日々を送る人を援助するリハビリテーションの実践を学び、基本となる日常生活活動（動作）とは何か理解する。				
授業科目の 学習教育目標	日常生活活動（以下 ADL）の概念や ADL 評価、国際生活機能分類[ICF]との関連性などの基本的な ADL を理解する。理学療法士として適切な ADL の改善方法が提供できるよう、実習や演習を通して評価・指導方法を身につける。また、ADL を支援する機器としての自助具や日常生活用具、歩行補助具や車いすなどの補装具の使用目的とその役割についても理解する。				
到達目標 (行動目標)	①ADL の概念、生活の質[QOL]の概念、ICF など基本的な知識が説明できる。 ②ADL の代表的な評価方法を習得し、その結果を解釈できる。 ③セルフケア能力低下の程度と関連要因を評価し、対象者の状態を把握できる。 ④車いすの種類・適応、リフトの使用方法について説明し、車いすの調整を身につける。 ⑤臥位・座位の適切な姿勢保持を知り、対象者の姿勢を修正できる。 ⑥摂食・嚥下障害、褥瘡予防についての理学療法、ポジショニングについて理解する。				
回数	授業計画				
1	ADL の総論				
2	ADL の評価				
3	実際の臨床現場から読み取れる情報は何か①				
4	ADL と障害①				
5	ADL と障害②				
6	実際の臨床現場から読み取れる情報は何か②				
7	模擬症例で採点する BI の実際				
8	模擬症例で採点する FIM の実際				
9	福祉用具①				
10	福祉用具②				
11	脳血管患者の ADL①				
12	脳血管患者の ADL②				
13	脊髄損傷患者の ADL				
14	リウマチ患者の ADL				
15	呼吸器疾患、整形外科疾患の ADL				
成績評価	定期試験（100%）				
教科書及び参考書	標準理学療法学 専門分野 日常生活活動学・生活環境学 第5版				
教材 <small>(例：パソコン・プロジェクター)</small>	教科書、筆記用具、パソコン、プロジェクター				
メールアドレス	<a href="mailto:kawa-c@matsuecc.ac.jp">kawa-c@matsuecc.ac.jp</a>				
備考（受講に際する留意点など）					
演習では、動きやすい服装になるよう配慮してください。提出課題がある場合には、提出期限を厳守してください。授業中の飲食は禁止します。教室の出入りは許可を取ってください。授業中は携帯電話の電源をきることを。					

科目区分	専門分野	履修条件			
科目名	日常生活活動論実習	単位数	1	開講年次	2年後期
担当教員	川島 直也	実務経験	理学療法士として総合病院で実務経験あり。		
授業形態	講義・実技				
授業内容	疾患、障害別の日常生活動作の指導法・介助方法などの基本的技術を学ぶ。 また障害に合わせた福祉用具に関する知識について学ぶ				
授業科目の 学習教育目標	片麻痺・脊髄損傷など障害に合わせた日常生活活動の介助方法・指導方法などの基本的技術を学び、障害に合わせた福祉用具の検討も行う				
到達目標 (行動目標)	疾患・障害に合わせた日常生活活動の介助方法・指導方法などの基本的技術を身に着ける。障害に合わせた福祉用具を検討することができる。				
回数	授業計画				
1	ADLに必要な関節可動域と各関節の筋力について（グループワーク①）				
2	ADLに必要な関節可動域と各関節の筋力について（グループワーク①）				
3	ADLに必要な関節可動域と各関節の筋力について（グループワーク①）				
4	グループワーク①の発表				
5	疾患別模擬症例のADL、生活環境の理学療法総合評価の実践（グループワーク②）				
6	疾患別模擬症例のADL、生活環境の理学療法総合評価の実践（グループワーク②）				
7	疾患別模擬症例のADL、生活環境の理学療法総合評価の実践（グループワーク②）				
8	疾患別模擬症例のADL、生活環境の理学療法総合評価の実践（グループワーク②）				
9	疾患別模擬症例のADL、生活環境の理学療法総合評価の実践（グループワーク②）				
10	疾患別模擬症例のADL、生活環境の理学療法総合評価の実践（グループワーク②）				
11	疾患別模擬症例のADL、生活環境の理学療法総合評価の実践（グループワーク②）				
12	疾患別模擬症例のADL、生活環境の理学療法総合評価の実践（グループワーク②）				
13	疾患別模擬症例のADL、生活環境の理学療法総合評価の実践（グループワーク②）				
14	疾患別模擬症例のADL、生活環境の理学療法総合評価の実践（グループワーク②）				
15	グループワーク②の発表				
成績評価	グループワークの課題提出（25%×2回=50%）+定期試験（50%）				
教科書及び参考書	標準理学療法学 専門分野 日常生活活動学・生活環境学 第5版				
教材 <small>（例：パソコン・プロジェクター）</small>	パソコン、配布資料				
メールアドレス	<a href="mailto:kawa-c@matsuecc.ac.jp">kawa-c@matsuecc.ac.jp</a>				
備考（受講に際する留意点など）					
グループワークを中心に疾患別のADL動作、福祉用具の選定について実習形式の講義を展開します。疾患についての基礎的な知識を踏まえた上での話が多くなります。積極的にグループワークに参加し、人任せにしない姿勢でワークに望んでください。					

科目区分	専門分野	履修条件		
科目名	義肢装具学	単位数	2	開講年次 2年前期
担当教員	内田 賢	実務経験	理学療法士として総合病院で実務経験あり。	
授業形態	講義			
授業内容	義肢・装具学について説明する			
授業科目の 学習教育目標	義肢・装具は、身体機能を補助し、ADLやQOLを高めるアイテムである。 基本的な義肢・装具の種類や適応、調整方法等について学ぶ。			
到達目標 (行動目標)	義肢装具について説明できる。 対象者に適した義肢・装具が検討でき、そのチェックアウトや調整ができる。			
回数	授業計画			
1	総論：定義・切断分類・原因等			
2	義足のパーツについて			
3	下肢切断部位と特徴			
4	下腿義足 1			
5	下腿義足 2			
6	大腿義足 1			
7	大腿義足 2			
8	股義足・膝義足・サイム義足等			
9	装具総論：定義・分類等			
10	下肢装具 (AFO1)			
11	下肢装具 (AFO2)			
12	下肢装具 (KAFO、KO、HO 等)			
13	靴型装具			
14	上肢装具			
15	体幹装具			
16	疾患別装具 まとめ			
成績評価	定期試験、小テスト等総合的に判断します			
教科書及び参考書	教科書：15 レクチャーシリーズ理学療法テキスト「義肢学」「装具学」中山書店 参考書：義肢装具学 医学書院 切断と義肢 医歯薬出版、義肢装具のチェックポイント 医学書院 義肢・装具学 羊土社			
教材 <small>(例：パソコン・プロジェクター)</small>	パソコン・プロジェクター			
メールアドレス				
備考 (受講に際する留意点など)				
義肢・装具を理解するためには、運動学の知識が必要です。各関節の運動学や歩行の運動学について復習しておいてください。国家試験の過去問も解説をしながら使用します。				

科目区分	専門分野	履修条件			
科目名	義肢装具学実習	単位数	1	開講年次	2年後期
担当教員	中村宣郎 鎌田智彦 後藤 開	実務経験	義肢装具士として医療機器メーカーでの実務経験あり		
授業形態	実習				
授業内容	義肢・装具について実習する				
授業科目の 学習教育目標	<p>事故や病気等で手や足を失われた方が使用される義手や義足のメカニズムについて理解する。また近年目覚ましく進歩している義肢の構成パーツについても映像を通して知識を深める。</p> <p>装具は、身体の一部が弱かったり、機能が失われたときに用いられます。装具には、治療を目的として短期間使用される場合と、長期間にわたってADL確保のために使用される場合がある。</p>				
到達目標 (行動目標)	<p>義肢装具の種類を説明できる。義肢装具の適応について説明できる。義肢装具の適合性の確認について説明できる。義肢装具のアライメント調整ができる。</p>				
回数	授業計画				
1	下肢装具 1				
2	下肢装具 2				
3	上肢装具 1				
4	上肢装具 2				
5	体幹装具 1				
6	体幹装具 2				
7	実習 1				
8	実習 2				
9	下腿義足、サイム義足、足根義足のメカニズム 1				
10	下腿義足、サイム義足、足根義足のメカニズム 2				
11	大腿義足、膝義足、股義足のメカニズム 1				
12	大腿義足、膝義足、股義足のメカニズム 2				
13	前腕義手、上腕義手、肩義手のメカニズム 1				
14	前腕義手、上腕義手、肩義手のメカニズム 2				
15	<p>大腿義足のベンチアライメント</p> <p>義足まとめ</p>				
成績評価	定期試験				
教科書及び参考書	教科書：15 レクチャーシリーズ理学療法テキスト「義肢学」「装具学」中山書店				
教材 (例：パソコン・プロジェクター)	パソコン、ビデオ				
メールアドレス					
備考（受講に際する留意点など）					

科目区分	専門分野	履修条件			
科目名	生活環境論	単位数	2	開講年次	2年前期
担当教員	川島 直也	実務経験	理学療法士として総合病院で実務経験あり。		
授業形態	講義				
授業内容	障害と生活環境について学習する				
授業科目の 学習教育目標	各種疾患・障害あるいは加齢などが、高齢者や障害者だけでなく、介護する家族の生活にどのような影響を与えるのか、そして我々リハ職種がどうかかわっていくかを学ぶ。疾患や障害像、生活場面に応じた様々な住環境問題と対策について、具体的な内容を講義する。また、図面の作成を通じて、講義内容の理解を深める。				
到達目標 (行動目標)	住環境整備の進め方や留意点について理解する。加齢や障害別の住環境整備について考慮できる。図面の見方や見取り図が描けるようになる。				
回数	授業計画				
1	生活環境学の概論				
2	生活環境の評価				
3	生活環境の評価をもとに考える環境設定計画				
4	生活環境の法的諸制度				
5	生活環境と福祉用具の選択①				
6	生活環境と福祉用具の選択②				
7	福祉住環境コーディネーターについて①				
8	福祉住環境コーディネーターについて②				
9	住環境の確認と情報共有について				
10	模擬症例と住環境設定①				
11	模擬症例と住環境設定②				
12	模擬症例と住環境設定③				
13	模擬症例と住環境設定④				
14	街のバリアを探しにでかけよう①				
15	街のバリアを探しに出かけよう②				
成績評価	定期試験・グループワークの提出物				
教科書及び参考書	標準理学療法学 専門分野 日常生活活動学・生活環境学 第5版				
教材 <small>(例：パソコン・プロジェクター)</small>	パソコン				
メールアドレス	<a href="mailto:kawa-c@matsuecc.ac.jp">kawa-c@matsuecc.ac.jp</a>				
備考（受講に際する留意点など）					
生活環境についての奥深さを、具体的な事例を通じて学んでください。また講義で得た知識を実際に役立てるため、ノーマライゼーションや地域リハビリテーションについても理解を深めてください。					

科目区分	専門分野	履修条件			
科目名	地域理学療法	単位数	2	開講年次	2年後期
担当教員	内田 武	実務経験	理学療法士として総合病院で実務経験あり。		
授業形態	講義、グループワーク				
授業内容	地域リハビリテーションの概念を理解し、法制度を学ぶ。地域における理学療法の知識、技術について学び、各時期における心身機能の変化や理学療法の目標などについて考えていく。介護保険制度や地域包括ケアシステムの展開や、理学療法領域の広がりを見据え、介護予防、健康増進、災害時支援・国際支援と視野を広げた医療機関以外での多くの活動についても理解する。				
授業科目の学習教育目標	地域連携やそのシステムを踏まえ、地域で生活する高齢者や障害(児)者の生活機能の維持・向上に向けて、理学療法士の立場から支援していくための知識・方法について理解する。理学療法領域の広がりを見据え、介護予防、健康増進、災害時支援・国際支援と視野を広げた医療機関以外での多くの活動についても理解する。				
到達目標 (行動目標)	① 地域理学療法における理学療法士の役割を理解し、入所施設、通所施設、通所施設、訪問における理学療法について説明する ② 地域包括ケアシステムにおける理学療法士の役割が説明できる。 ③ 地域における他職種連携について説明できる。 ④ 健康維持・増進における理学療法・理学療法士の役割が説明できる。集団を対象とした指導方法が説明できる。 ⑤ 介護予防における理学療法・理学療法士の役割を説明できる。				
回数	授業計画				
1	地域理学療法概要、地域包括ケアシステム				
2	フレイル（運動器）について				
3	フレイル（運動器）の実際				
4	事例検討				
5	認知症・うつ病予防について				
6	認知症・うつ病予防の実際				
7	事例検討				
8	サルコペニアについて				
9	サルコペニア（口腔・栄養）の実際				
10	事例検討				
11	ロコモティブシンドローム、転倒予防について				
12	地域の施設について				
13	地域行政の政策について				
14	地域における社会資源活用（グループワーク）				
15	まとめ				
成績評価	課題レポートなどで総合的に判断				
教科書及び参考書	PT・OT ビジュアルテキスト 地域リハビリテーション学 第2版 羊土社、配布資料				
教材 <small>(例：パソコン・プロジェクター)</small>	パソコン、プロジェクター、筆記用具				
メールアドレス					
	備考（受講に際する留意点など）				

科目区分	専門分野	履修条件			
科目名	臨床実習 I	単位数	4	開講年次	2年後期
担当教員	PT 学科教員	実務経験	理学療法士として総合病院で実務経験あり。		
授業形態	診療参加型臨床実習				
授業内容	実習施設において臨床実習指導者のもと、対象者に対する理学療法評価から治療プログラムの立案という一連の過程を実習する。				
授業科目の 学習教育目標	理学療法の流れを理解し、臨床内容の意義を理解した言動を取る。 チーム職種の考え、行動を理解し、チーム職種が考えた臨床推論について説明できる。 自らの考えを模倣的に発する経験を積む。				
到達目標 (行動目標)	①理学療法士としての基本的姿勢を身につける。(身だしなみ、言葉遣い、規則厳守) ②自己の課題や役割に対し意欲的、積極的に取り組み、指導に対し改善していくことができる。 ③相手の訴えを聞き、気持ちを理解し、良好な人間関係を構築する。 ④誠意をもって接することができ、信頼を得ることができる。 ⑤記録、報告が適切な時期に行え、正確・簡潔な記載が専門用語を用いてできる。 ⑥情報収集、評価結果より妥当な目標設定・問題点抽出ができる。 ⑦仮説立案より検査・測定を選択できる。 ⑧基本的な検査、測定が段取り良く安全に実施でき、正確性、再現性がある結果が出せる。 ⑨わかりやすいオリエンテーションが行える。 ⑩リスクに配慮し、治療プログラムの立案・実施ができる。				
実習計画					
客観的臨床能力試験 (OSCE)(2 時間)					
実習施設における見学 (40 時間)					
実習施設における実習(120 時間)					
・見学、模倣、実施を段階的に指導者の判断の下、リスクの低い患者様、指導の下、実施可能な患者様において評価、治療等を行う。 ・日々の関りの中で、入院から退院までの流れを知るとともに、ゴール設定、問題点の抽出、治療プログラム立案の考え方を指導者より学ぶ。					
臨床能力総合試験 (OSCE) (2 時間)					
実習地：病院又は診療所、介護老人保健施設、特別養護老人ホーム					
実習における課題(16 時間)：自己チェックシート、問題点と努力目標 (実習前後に記入)					
成績評価	提出物、実習評価表および OSCE の結果より総合的に判断する。				
教科書及び参考書	特に指定しない				
教材 <small>(例：パソコン・プロジェクター)</small>	特に指定しない				
メールアドレス					
備考 (受講に際する留意点など)					
これまでの学習内容や、評価・検査に関する技術などを確認しておくこと。					

科目区分	専門分野	履修条件		
科目名	通所リハ、訪問リハ実習	単位数	1	開講年次 2年
担当教員	理学療法学科教員	実務経験	理学療法士として総合病院で実務経験あり。	
授業形態	臨床参加型臨床実習			
授業内容	訪問リハビリテーション、通所リハビリテーションにおける理学療法士の役割を理解し、地域包括ケアシステムに關与する関連専門職の役割を理解する。			
授業科目の 学習教育目標	訪問リハ、通所リハの利用者に対する理学療法を見学する。訪問リハ、通所リハの利用者に対する理学療法の一部を指導の下、経験する。ケアプランの立案過程を見学する。			
到達目標 (行動目標)	①対象者を尊重し、共感的態度をもって、より良い・善い人間関係を構築できる。 ②職場における理学療法士の役割と責任について理解し、その一員としての自覚のある言動を取ることができる。 ③理学療法の流れを理解するとともに、臨床内容の意義を理解した言動を取ることができる。 ④状況に応じて自らの考えを模倣的に発する経験を積む。 ⑤チーム職種の考え、行動を理解し、チーム職種が考えた臨床推論について説明できる。 ⑥カンファレンス等を通じ自らの考えについて意見交換ができる。			
実習計画				
客観的臨床能力試験 実習施設における実習（40時間） ・見学、模倣、実施を段階的に指導者の判断の下、リスクの低い患者様、指導者の下、実施可能な患者様において評価、治療等を行う。 ・日々の関りの中で、発症から現在までの治療の流れを知るとともに、地域理学療法におけるゴール設定、問題点の抽出、治療プログラム立案の考え方を指導者より学ぶ。 課題（5時間）：{自己チェックシート、問題点と努力目標（実習前後に記入）}。 実習施設：デイサービス提供施設、訪問リハビリ提供施設				
成績評価	実習評価表および提出物により総合的に判断する。			
教科書及び参考書	特に指定しない			
教材 <small>(例：パソコン・プロジェクター)</small>	特に指定しない			
メールアドレス				
備考（受講に際する留意点など）				
これまでの学習内容や、評価・検査に関する技術などを確認しておくこと。特に、医療保険・介護保険制度の違いについても自己学習し、理解しておくこと。				